

福祉サービス第三者評価

〔令和4年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ本郷第二保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） （法人理念） 未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む 心豊かなエコ環境と優しい地域に生き生きと共生する子どもを育む みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む （方針） 【やる気を育てる保育】 ・遊びを通して子どもの知的好奇心や探求心を養い、やりたいと思ったことを最後までやりきる喜びを味わせる。・自ら自分で考えて行動し、気づき発見し、工夫し、感動し、考えるおもしろさに出会う機会を提供する。 【優しさを育てる保育】 ・異年齢児や地域交流などによる多様な人々との関わりを通して、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。・達成感や感動を生み出す機会をつくり、豊かな感性を育む。・話をよく聴き、自分の思いや考えを相手に伝えることができる力を養う。 【たくましさを育てる保育】 ・保育者との信頼や安らぎのなかで、のびのびと自分を表現することの喜びを感じさせる。・基本的な生活習慣や生活態度を身につけることができるよう、個々の発達に寄り添う支援ができる。・からだ全体を使って活動する楽しさを味わうことができる機会をつくる。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・あたたかい人柄でプロとしての自覚を持ち、常に向上心を持ちながら、人間性や専門性を高め職務を遂行してほしい。 ・職員間で連携を取り保育の楽しさを共感し、成長しあえる。また、保護者の気持ちに寄り添いより良い関係が築けるよう努力し、あたたかく援助ができるようにする。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・社会のニーズや情報に関心を持ち、柔軟な保護者支援をしてほしい。 ・保護者にとって大切なお子さんを保育している、また命を預かっているという使命感を持ち、未来を担う子どもたちの一番大切な時期に携わっているという、誇りと自覚を持ってほしい。

調査対象

保育園に通っている園児14世帯14人に対して調査を行った。
同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。

利用者総数

14

利用者家族総数(世帯)

14

共通評価項目による調査対象者数

14

共通評価項目による調査の有効回答者数

12

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

85.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」58.3%、「満足」33.3%の計91.6%であった。
自由意見では、「熱意と愛情を持って子どもに接してくれる保育士が多く、個々のニーズにも十分対応してくれており、感謝することばかりです。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が多く寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもの保護者への対応、設備に関する点など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中15問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「その時々個人がやりたいことをやらせてくれており、クッキングに植物栽培、体操などとても興味を持って取り組んでいる」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「季節の食べ物、行事食の特別感など工夫してくださっていたり、子どもも学んでから食べるので、学びが知識として残りやすい」「季節を感じられる行事食など工夫があります」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	1	1	0
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は8.3%であった。 自由意見では、「コロナの流行、夏の暑さなどにより、外遊びが難しいのがわかります」「コロナ禍でやむおえない部分ですが、もう少し園外のコミュニティー（他園や他施設）との接点があると良い」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	1	0	1
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は8.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	2	0	0
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	11	1	0	0
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	1	0
「はい」の回答は91.7%、「いいえ」の回答は8.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「コロナ禍で園の中の様子が見えにくく、トイレなど評価しにくい箇所もあります」という意見が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	1	0	0
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%であった。 自由意見では、「言葉づかいが気になることがあります」という意見が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	2	0	0
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	1	0	2
「はい」の回答は75.0%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は16.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	2	0	0
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	2	0	0
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。 自由意見では、「月のお知らせに明確に説明されている」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	1	0	0
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	1	0	2
「はい」の回答は75.0%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は16.7%であった。 自由意見では、「子どもの発達に関することを外部へ相談できるようかけ合ってくださいました」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当	
カテゴリー1の講評			
法人全体で作り上げた保育理念や目標が様々な場面で表示、浸透されている 法人の理念は入社の際に理念等が記載してある入園のしおりを配布している。また、大きく改定があった時も再度配布している。園の玄関に保育目標を掲示し、職員が常に見られるようにしている。職員は保育目標が掲載されている全体的な計画を随時確認しながら、保育や研修の機会に自己評価による振り返りを行っている。利用者には保護者会などで園の運営方針を伝え、クラス担任から保育内容のねらいと子どもたちの姿を説明している。			
コミュニケーションを大切にした組織運営を行っている 園長と主任によるコミュニケーションを大切にした家庭的な組織運営が進められている。職員は職務分担表に基づきそれぞれの業務に取り組んでおり、園長と主任は全体を回って、保育現場の状況と職員の状態把握に努め、必要に応じて適切な助言や指示を行っている。園の保育方針の3本柱「やる気を育てる保育」「優しさを育てる保育」「たくましさを育てる保育」が園の組織運営にも活かされており、率先して理念の実践をめざして日々職員と意思を共有することに努め職員全体を牽引している。			
園は保護者にも職員にも透明性の高い組織運営に努めている 園の運営に関わる重要な案件は、保護者が参加する運営委員会の前に、保護者にアンケートを実施している。保護者に対する園運営に関する情報は、運営委員会の議事録やアンケート集計内容、園だよりなどで園の考え方を示した上で発信しており、保護者の理解を得よう努めている。保護者会や運営委員会で話していくこと、言葉だけでなく第二園の子どもたちの活動の様子の写真などを見ながら、この姿は、こういったねらいというように丁寧に説明し、保育目標や10の姿と繋げて保護者に分かりやすいように説明している。			

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 保護者や職員の意向、地域の福祉ニーズなどを様々な機会に、把握や検討を行っている 保護者からの意向の把握は、行事後に必ずアンケートを作成している。意見や要望、苦情に対しては体制を整えてさまざまな状況にきめ細かく対応しており、保護者アンケートでも保育サービスの実施内容や環境整備、接遇対応など全ての面で評価が高い。また、運営委員会や行事の感想から利用者のニーズを会議で把握し、職員の意向も聞いて検討及び改善に取り組んでいる。 職員の意向や地域情報の把握に努めている 職員の意向の把握は定期的に職員面談で聞いたりして働き方を丁寧に説明して改善点に繋げている。地域や福祉全般に関する情報の把握と分析に関しては、行政や園長会、広報などから情報を収集している。地域の老人ホーム施設と繋がり、園の様子や歌、言葉をDVDに編集(手作りプレゼント)して見て頂く交流を行っている。連携園からの転園が優先的にできるため、必然的に3歳児入園の獲得ができていると思っていたが、2名しか進級してこなかった。実績を踏まえて、翌年はfacebookや園前にチラシを置き、zoomで園説明会を開催している。 事業計画書の期反省や年度末総括を通して達成度合いがわかる事業報告に期待したい 当園の中期計画(3年計画)を策定し、保育計画に則った保育の実施、組織の見直し、人事労務、経営基盤の確立、地域ニーズの把握などについての課題を取り上げて方向性を明示しています。中・長期計画を踏まえてキャリアビジョンシートを策定しており、年度末までに行う目標を設定している。目標の進捗状況の把握は、課題を解決するための行動計画と数値目標を明確にした上で、定期的に確認し、年度末に事業報告にて結果を総括し、次年度の事業計画に反映するなどの取組が望まれる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を適宜利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人としてのマナーを大切にすることへの意識の喚起や共有を啓発するようにしている 社会人としてのマナーを園内研修で取り組んでいる。「社会人としてのマナー」を周知している。就労規則を全職員に拝読してもらい、内容の周知を図っている。地域の民生委員の方と法律事務所の顧問弁護士への相談が出来ることを、入園のしおりや保育園の玄関に苦情対応要綱を掲示している。当園では地域貢献に非常に力を入れており、ボランティアや実習生の受け入れ体制を整えており、受け入れの実績も行われている。受け入れに当たり、利用者のプライバシーが守られるように同意書等の書類を取り交わしている。 苦情解決や虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている 保護者からの意見や要望、苦情があった場合は、机上の状況の経緯をしっかりと把握し、解決に向けて改善した内容を文書にしてフィードバック、または話し合いの場を設けている。職員として子どもの虐待については、園内研修で「虐待」についてDVDを観たり児童憲章を職員で読み合わせを行って、虐待防止チェックシートで自己評価を行っている。疑いのある場合は、まずは関係機関(教育センター)に連絡をし、状況を伝える。その後は、教育センターの方が早急に保育園に出向き実際の子ども状況の確認を行うことにしている。 地域との係わりや交わりを絶やさない意欲と工夫を発揮しながら地域交流に努めている 園の情報はホームページやfacebookで保育の活動や申し込み案内など公開し、地域の方々には行事の案内を掲載して、園の様子や活動状況の広報を行っている。子育ての悩みを抱える地域の家庭向けに懇談する機会も設けており、地域の方同士が話したり、保育士が各種の相談や質疑応答を行って地域の力になれるように取り組んでいる。特別養護老人ホーム2施設と交流会をしている。コロナの為、直接の訪問はできないが、子どもたちの保育園で遊んでいる様子や歌のプレゼントをDVDにまとめて施設の方で動画を見ていただいている。

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる				サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている ○非該当 ●あり ○なし 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている ○非該当 ●あり ○なし 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している ○非該当 ●あり ○なし 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる ○非該当 ●あり ○なし 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる ○非該当					

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

	カテゴリー5の講評
	職員の質の安定確保とレベルアップに向けた人材育成と人材採用が適宜行われている 求人に関しては、法人のホームページを利用し、専門職ごとに募集している。園の理念に沿った人材獲得のために、面接を実施し、採用を行っている。職員の総合的な育成は、保育力向上リーダーを設けて園の理念や基本方針の繋がる「非認知能力」など勉強会をしている。地域貢献リーダーを設けて地域の方と本園の親子との交流をしている。園の人材育成計画と整合させ、その育成計画に基づき職員一人一人の育成を職務分担表で職責の職務内容を明示している。賞与の査定は、職員面談で仕事の評価を説明し、今後の課題を一緒に検討している。 策定された人材育成計画に人材育成基本方針とキャリアパスの説明が行われている 策定された人材育成計画の人材育成基本方針としてキャリアパスの解説と人事考課制度の説明を職種別に詳しく説明している。中期事業計画に基づき、職員個々の作成する自己目標シート等での自己目標や研修希望を把握しながら策定される人材育成計画は人材育成計画表によって示されている。特に、キャリアパスを職員にわかりやすく説明する取組や、法人のキャリアパスと園の育成方針を連動させた人材育成計画の策定の面では課題が見られる。人材育成計画を作成し、専門性や社会性、人間性の3点に趣を置き、長期的な視野で職員育成に取り組んでいる。 理念や基本方針などの実現に向けて組織力を発揮、強化できるよう仕組みを整えている 職員の日頃の気づきや工夫のアイデア等を生かすため、定例会議、面談、日々の保育の中で気づきに対して話し合う場を設け、様々な意見交換が行われている。保育力リーダー、地域貢献リーダー、調理向上リーダーを設けて、職員の育成・評価と処遇などと連動させている。研修後は、研修報告書を作成し、報告書を全職員で閲覧している。また、職員会議内で、発表する場を設け共有している。チームでの活動が効果的に進むように、保育力向上リーダーをたてて、園内の問題点改善点を分析すると共に年間を通して取り組んでいる。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度は3～5歳児の新入園児の獲得を重要課題として捉え、前年度の重点施策として、前年度の新入園児が少なかったことで、早い時期から園の説明会や行事(秋祭り)への参加の呼びかけに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、本郷園からの進級児は増えたが、他園(地域の子どもたち)からの獲得が上手く機能したことが達成に繋がったと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、保育園前に看板を設置(自由にチラシが持ち帰りできるようにしている。土曜日には、地域の方と本園の園児と保護者参加できる調理師企画のクッキング体験や保育体験に拡げた取組に発展させている。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 3～5歳児の新入園児の獲得を重要目標として掲げており、前年度の重点施策として、前年度の新入園児が少なかったことで、早い時期から園の説明会や行事(秋祭り)への参加の呼びかけに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できたことは評価できる。その要因としては、本郷園からの進級児は増えたが、他園(地域の子どもたち)からの獲得が上手く機能したことが達成に繋がったと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、自由にチラシが持ち帰りできるようにしている。			

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度、転倒してしまう子が多く見られたり、就学に向けてお話を聞き、行動できる子の職員のスキルアップを重要課題と重点目標に掲げた。前年度の重点施策として、正課体操の導入と職員への指導に取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、体幹を鍛えることだけでなく、子どもの心の育ちや導入したことで、保護者の満足感が得られ、職員も上達したことが成果に繋がったことと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、子どもたちの成長した姿を保護者様が見れる活動や行事(運動会)を取り入れて、さらにに拡げた取組に発展させている。	
目標の設定と 取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 行動できる子の職員のスキルアップを重要課題と重点目標に掲げているが、重点課題があるから、重点目標が必要となるという考えのもと整理して計画をまとめた方が検証しやすくなるのではないだろうか。今年度に向けて、子どもたちの成長した姿を保護者様が見れる活動や行事(運動会)を取り入れて、さらにに拡げた取組に発展させている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
	評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリー1の講評		
	園生活の様子をパンフレットやフェイスブック、保育体験の案内で詳しく紹介している 自園がどういったことをねらいとして保育を行っているかがわかるように園紹介パンフレット、園紹介のフェイスブック、クッキングの体験案内のチラシを作成している。また、パンフレットやチラシは園の玄関(戸外)にボードを立て装飾して目に留まりやすく手に取りやすいように設置している。園見学に気軽に参加できるようにチラシやパンフレットに招待文を掲載している。また、パンフレットに園のフェイスブックへと繋がるQRコードを載せ、より詳しく園の様子を知ることが出来るようにしている。説明会は年に2回実施、見学会は随時受け付けている。 園見学は年間を通して予約の上で参加できるように案内を行っている 園見学では保護者氏名、電話番号、子どもの氏名、住所、保育施設に通っているかの有無とその施設名、アレルギーの有無、その他特記事項を記録している。また、電話の受付の際にはお子様の年齢、対応した職員を記録している。園見学では園長、主任が対応している。保育体験は実施期間を設けず、年間を通して予約の上で参加できるように案内を行っている。給食の試食体験も保育体験と同様に年間を通して実施している。保育体験後にその他の体験会に招待の案内(電話連絡)を行っている。 利用希望者に提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている 利用希望者等の特性を考慮し、説明会で園の様子を伝えていく際には写真を多く取り入れながら様子が分かるようにしている。パンフレットに園のフェイスブックに繋がるQRコードを掲載することでフェイスブックを利用しながら外国籍の方でも翻訳機能で園の様子が分かるようにしている。		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
園生活における約束事や持ち物などは入園説明会や面談などで丁寧に説明されている 通常であれば、園運営に関する重要事項や園生活における約束事などを説明する入園前説明会を実施しているが、コロナ禍において集会での開催が難しかった際には、個別に設けた面談の時間に対応している。園で必要な物や家庭で用意していただく物などは、実物を見せながら説明することでイメージしやすいように配慮し、質問などにも対応しながら丁寧に説明している。家庭状況の把握や園側からの説明書類、個人情報に関する同意書などは、系列園共通の書式を活用している。 園の基本ルールや重要事項について説明し、同意を取っている 園では、重要事項説明書や入園説明会ご案内、提出書類一覧を事前に郵送し、目を通して頂いた上で利用契約書の読み合せを行い、同意を取っている。口頭説明の内容は保護者に1部、園に1部と両方で資料を作成し、資料に載せていない特記事項などは入園前生活事前調査に記載している。面談内容に漏れやないように、新入園児面談表や給食食材チェック表に確認をするようにしている。 卒園後も子どもや保護者との関係を継続できるように、様々な取組が行われている 卒園や退園、退園する児へメッセージカードのプレゼントをしている。また、退園や転園する児へ衣服やオムツ、ビニール袋のストックなどの預かっている物を返却している。卒園する児の家庭に対しては、学童保育の案内の書類を配布している。卒園する児には夏祭りの行事に参加できるよう招待の書類を配布している。卒園や転園する児に対してメッセージカードを配布するだけでなく、保護者には、卒園後も遊びに来たり、相談できることを伝え、安心できるように配慮している。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に応じて、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
保護者との連携を深めて個々の状況を把握し、記録に残すしくみを整えている 入園時の面談や送迎時のコミュニケーション、連絡帳などで子ども一人一人の生活状況や心身状況などを把握し、保育システムを活用した日誌に記録している。保護者からの要望も日誌や引継ぎ簿に記録し、状況を考慮して面談を行った際には面談記録にも残して、職員間で共有しながら日々の保育に反映させている。個々の成長や日々の保育対応の基盤となる指導計画は、年齢毎、書式毎に定められた時期に定期的に振り返っており、新たな計画を策定している。		
各年齢や分野毎に多彩な年間指導計画を作成し、保育の充実を図っている 3歳児以上は5歳児までの子どもと共に生活する異年齢保育を実施しているが、全体的な計画に基づいた年間の保育計画は、年齢ごとに発達状況を見込んだ視点で作成され、個々の育ちを大切に保育を進めている。また、配慮が必要な子どもには個人別指導計画を作成し、保健や運動、文学、環境など、様々な分野ごとにも年間指導計画を作成して保育の充実を図っている。異年齢クラスの年間目標の意図や目指していく保育については保護者会で詳しく説明し、個別の指導計画は面談の場を設けて保護者と共有している。		
定期的な振り返りや職員間の連携を深めて子どもたちの成長を見守っている 3～5歳児は期ごとに発達の記録を残し、養護・教育・健康・喫食状況などのほか、保育所保育指針に基づいた「育ってほしい10の姿」の視点から成長を捉えるように配慮している。当園では、全職員ですべての子どもを見守っていく体制が整えられており、園側からのコメントを記載した連絡ノートを事務所の前に設置して他の連絡ノートにも目を通している。日々の細かな情報に関しても、引継ぎ表や職員連絡ノートを活用して早番・遅番も含めた申し送り体制を整えている。指導計画の内容は職員会議や給食会議で共有している。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
プライバシー保護や子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている 入園の際には、個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ている。事前に同意は得ているが、例えば地域交流の取組で動画のやり取りなどをする際には、事前に口頭でも説明し許可を得ている。子どもの羞恥心に配慮するために、まずは保育者が子どもの成長過程で少しずつ羞恥心を覚え始める時期であることを念頭におき、援助している。身体測定や着替えの際にはカーテンを閉め外部から見えないようにしている。シャワーの際には、一人一人行う、男女で分けてシャワーをするなどの配慮を行っている。		
子どもの人権を尊重した保育に努め、虐待への理解を深めるために研修を行っている 日常の保育の中で子ども一人一人を尊重するために、子どもの人権について園内研修を行い職員間で共通認識統一していくと共に、子どもの思いやしたいこと、生活習慣に寄り添う保育を行っている。園長は、日誌に子ども一人一人を尊重する姿があった時には職員に対して自信がつくよう、何がどのように子どもたちにとってよかったのかを伝えていっている。虐待防止や育児困難家庭への支援に向け、園内研修を行い、虐待や育児困難家庭等の現状・課題の把握について話し合ったり、動画をみたりしながら職員への浸透を図っている。		

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改定の時点や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ6の講評		
各種マニュアルの整備を行い、見易く参照することができるように配置している 園の事業運営や保育に関するマニュアル類は全体を通して細かく定められ、事務所の書庫でマニュアルを職員が回覧できるように配置している。マニュアル等は職員が必ず一度回覧出来るように回覧周知としてサイン欄を設けている。マニュアルについて、内容等に関して気が着いた点や変更を要すると思われる事項については、散歩マニュアル不審者訓練等のマニュアルの見直しは訓練の都度、反省や改善点を見直している。安全点検としてチェックリストを作成し、定期的に確認点検を行っている。		
基本事項の見直しにあたり、保護者からの意見や提案、子どもの様子を反映している 少人数制の保育園である特性を活かして保護者のアンケート結果や意見に対して素早く検討していくことができている。また、保護者からの意見を大切にし、職員にも保護者からのアンケート結果を回覧することで、園全体で保護者の思いや意見を捉えることができている。実施手順等の頻度や見直しの基準については明示してはいないが、保護者からの意見をもとにその都度対応している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35 / 35
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもの全体的な姿を職員間で共有し、発達に応じた指導計画に反映している 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人一人の全体的な姿を把握するために、月案の作成時に発達経過記録と照らし合わせ子どもの発達過程を把握しながら作成し、保育を行っている。また、子ども一人一人の発達状況はクラス会議をして周知していくことで、全職員で子どもたちの日々の様子を把握して関わられるよう努めている。子どもの日々の発達や心身の状態を視診し、家庭での様子の状況記録(登降園簿)によって計画していた保育内容でもその都度変更しながら保育を行っている。 発達に応じて子どもが遊びを選択して、主体的に遊べる環境構成に努めている 保育環境は、玩具を十分に配置することで子どもが主体的に選択し活動できる環境が子どもの主体性につながると捉え、十分な量の玩具を配置している。また、玩具だけでなく廃材や色鉛筆、のり、絵の具など制作に関する物品も保育室内で子どもたちが自由に手にすることができる環境を整えている。また、ハサミやセロハンテープなどの怪我の危険性が高いものは保育者が管理するが子どもたちの目線の中に入るように環境を整えることで使用したいときに使用できるようにしている。 子どもが年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、尊重する心が育つよう配慮している 行事や日常の保育で異年齢児と関わる時間を積極的に設け、年齢による違いを感じることができるようにしている。国旗の絵本を準備したり、世界地図を掲示したりすることで世界に興味を持てるように環境を整え、文化の違いに気が付きかけとなるようにしている。特別な配慮が必要な子どもの保育にあたり、個別の年間計画を立案している。例えば、どんな玩具を好んでいるのか、他児と関わるにはどんな玩具の提供が適切かなどを検討し、子どもの特性などを考慮して実践している。より専門的な知識を会得するために、障がい児保育の研修を受けている。			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄つなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
登園時は家庭での状況を把握して受け入れ、降園時に子どもの様子を伝えている 登園時には、子どもたちの体調などの身体的な様子や子どもたちの表情や仕草、普段の様子との違いなどを視点に保護者に確認している。また、前日の様子も含めて視診して確認している。確認した内容は登降園簿にて記録し、職員間で共有し保育の活動内容に変更を加えるなど配慮をしている。変更した際には日誌で記録をとっている。降園時には、登降園簿を活用してその日の状況を保護者へ伝えている。また、日々の生活の様子をノートにて記入し、保護者へ伝えることも行っている。 基本的な生活習慣の大切さを伝えながら、発達段階に応じた支援をしている 一人一人の発達状況は発達経過記録にて把握し、基本的な生活習慣について日々の生活の中で伝えている。例えば手洗いについては、手洗いチェッカーや手洗いスタンプを使った健康教育を行うなど子どもたちが基本的な生活習慣が身につくことの大切さを感じられるように子ども自身に考えてもらう機会を作りながら伝えている。午睡の長さや時間帯は登園時に確認した子どもの状況や年齢発達、家庭での状況に応じて配慮している。5歳児クラスは就学へ向けて休息時間を段々と減らしていき、就学した後の生活の流れに似た環境で過ごせるようにしている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付く、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子どもが興味を持った活動を集中して取り組める環境を整えている 子どもが興味を持ったタイミングの時に、一番子どもの発達や主体性・自発性が伸びると考え、その興味を持った活動を集中して取り組める環境を整えていくことを実践している。子どもが主体的に活動できるように遊具は取り出しやすい位置に配置し、コーナー保育を設定している。週案で環境を計画し、子どもたちが集中して取り組めた活動や夢中になって遊んだことをクラスだよりにて写真と共に知らせていくようにしている。 子どもが様々な表現を楽しみ、子どもの興味やあそびの幅を広げている 子どもが様々な表現を楽しめるように、音楽を使った表現遊びや造形を楽しむ表現遊びを子どもたちがやりたいと感じた時に楽しめるように子どもたちの手の届く所に物を設置している。また、専門の体操講師による正課体操の取組では、子どもたちが楽しく体を動かしている。次回の正課体操まで日々の保育で取り入れながら継続した活動を行っている。歌やダンス、音楽、わらべうた、制作、体操など保育者の得意なことを活かして、子どもたちと共に活動していけるように保育者の得意なことを職員間で把握し合って保育に取り入れている。 散歩や近隣の公園を活用して季節を感じられるように取り組んでいる 文化や季節の行事に親しみ、様々な経験をすることを目的として季節ならではの活動を保育の中に取り入れている。戸外活動では、季節に応じた戸外遊びのねらいをもち、季節の移り変わりや自然物、空気感など様々なものを五感で体験できるように計画し、実践している。生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付くよう、相手の話をきちんと聞くことや命の大切さを知ることなど、保育園で過ごす時期に育みたい子どもの姿を保育者間で共有し、子どもたちへ一方的にならないように伝えている。			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当	
評価項目4の講評				
行事の実施にあたり、子どもが興味や関心を持って取り組めるよう工夫している 行事を行う際には、行事についてただ知らせていくだけでなく、本物に触れたり、実際に体験したりすることで季節の行事に親しめるようにしている。例えば端午の節句では、しょうぶの葉に触れたり、香りを確かめたりして足湯でしょうぶ湯につかる体験をしている。意味や由来なども感じ取る様子もみられ、行事や文化に親しみがもてるように取り組んでいる。季節行事や伝承行事では、子どもたちが興味を持てるように保育者が制作したものを見せたり、実際にやって見せたりしながら子どもの興味・関心を引き出せるようにしている。 子どもが達成感を感じ取れるような、運動会などの行事を実施している みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事として、運動会やクリスマス会などを行っている。子どもたちが一つのことを協力して成し遂げる経験はコミュニケーションを培う場の獲得、継続する力の獲得など様々な力を育む場として取り組んでいる。子どもが自発的に活動に取り組もうとすることでやる気や意欲が引き出されて行けるように、やってみたいと思えるような声かけ、環境設定をしている。保護者の個別事情に関して、行事などは年度当初や事前に園だよりなどで伝えていくようにし、予定や個別の事情に配慮できるようにしている。				
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当	
	評価項目5の講評			
ゆったりとした環境の中で落ち着いて生活できることを大切にしている 保育時間の長い子どもが安心してくつろげるように、保育者とスキンシップを取りながら過ごせる環境や好きな玩具で安心して遊べる環境を整えている。子どもと保育者が信頼関係を築けるように普段の生活の中で子どもたちが保育者に甘える時間を設けたり、夕方の保育の際にスキンシップを取って甘えなくなった子どもには膝上で過ごせたりするなどの配慮をしている。 保育時間が長くなっても子どもが安心して楽しめるように保育形態を工夫している 少人数制の保育園である特性を活かして、学年の違う子どもたちが普段の生活の中で異年齢児との関わりを大切に行っている。朝・夕の合同保育になった際にも子どもたちが慣れ親しんだ環境で過ごせるように配慮している。自分のクラスでない保育室に行くことにも慣れることができるように普段からクラス間を行き来している。普段から関りを持っているため、朝・夕の合同保育になった際も安心感もちながら自分のしたい遊びに夢中になって遊んでいる様子がみられる。				

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当														
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当														
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当														
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当														
	評価項目6の講評 子どもが食事を楽しく食べられるようにメニューや雰囲気づくりに配慮している 食事をする環境は、嫌な思いや苦しい思いをせず、自分のペースで自分なりに楽しんで食べられるような雰囲気作りに努めている。苦手な食材は無理せずに、自分で食べられそうと感じる量を盛り付けたり、保育者が食べてみようとしたことを褒めたりすることで子どもが楽しく食事ができるように工夫している。メニューは2週間のサイクルメニューとしており、日々の子どものたちの喫食状況や嗜好などを給食会議で共有し次期メニューに活かしている。行事があるときには行事食を企画し、盛り付けも特別感が出るように可愛い盛り付けにしている。 子どもの体調や食物アレルギーなどに応じた食事を提供している 訪問調査時点では食物アレルギーのある子どもはいなかったが、いる場合は主治医の指示書をもとに保護者と面談を行い、アレルギーの除去食に対応している。開園から宗教や文化的配慮の子どもの在籍はないが、今後入園があれば保護者と相談し、園としてできる範囲で個別に対応していく方針としている。登園時に保護者から確認した子どもの体調などから、個別の子どものたちの姿に合わせて食事形態を変えて提供している。 年間食育計画もとに年齢ごとにさまざまな食育活動に取り組んでいる 年間食育計画と共に各クラスの食育活動計画書、クッキング予定表を作成し、発達に合わせたねらいを持って食育活動を行っている。少人数の強みを活かし、毎月クッキングにも取り組み、子どもたちの興味・関心の姿によって回数を増やすなど、クッキング活動はとても力を入れている。3歳児は、食べることが楽しくなるようなクッキングから始め、4歳児になるとピーラーでの皮むき、5歳児になると包丁で切る作業なども取り入れて行っている。また、植物の栽培活動を行い、植物の観察を通して愛情を感じるといったことにも繋げられるようにしている。															
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当			
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当														
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当														
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当														
	評価項目7の講評 年間保健計画作成し、子どもたちが健康に過ごせるよう取り組んでいる 年間保健計画作成し、子どもたちが健康に過ごせるよう取り組んでいる。例えば、看護師による手洗い指導の際には、実際に手を洗う様子を見せながら子どもの年齢に合わせて手洗いの大切さがわかりやすく伝わるように工夫している。夏季にはシャワーを使って身体を清潔にする際に自分で洗ってみたいなど子どもの発達、姿に合わせて保育者が声をかけている。毎月の身体測定、年4回の園医による健康診断を行い、結果については「健康連絡カード」に記載し、保護者に伝えている。心配がある際には地域の医療機関を紹介するなど相談に応じている。 子ども一人一人の健康維持に向け、保護者と連携を図って取り組んでいる 子どもの健康維持に向け、必要な情報や園から伝えたいことなどを保健だよりにて知らせていくことで保護者と連携を図っている。子ども一人一人の健康状態は登園時に視診すると共に保健日誌にて日々の様子を記録している。教育センターや民間の支援センターなどの専門機関と連携を取り、個別の支援を検討し、支援計画を作成して対応している。SIDSの予防では、午睡時にチェック表をつけ、子どもたちの寝ている態勢や呼吸などを細かく確認している。感染症等の罹患中や病後児対応では入園の面談時に説明し、園だより等でも定期的に説明している。															

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評				
個々の家庭の状況を把握し、保護者の事情に寄り添った対応をしている 登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に行い、産休や冠婚葬祭、就労状況などを考慮して支援を行っている。急な残業などによる延長保育の申し込みにも随時対応し、保護者の事情に寄り添えるようにしている。保護者同士が交流できる機会として、保護者会や夏祭りなどの行事で交流の機会を設けている。行事では子どもたちと一緒に保護者同士が楽しむ場面や保護者会では同じ年齢の子どもをもつ保護者として育児の喜びや悩みなどを話し合う機会を設けており、交流する良い機会となっている。 保護者と職員の信頼関係を深め、子どもの育ちに関する共通理解の形成に取り組んでいる 保護者と職員の信頼関係が深まるように、子どもたちが園でどのような生活をしているのかを連絡ノートやクラスだよりで詳しく伝えていくと共に、保育者がどのように保育を行っていきたいかを伝えている。また、園だよりやクラスだよりにて保育のねらいや活動内容を詳しく伝えるようにしている。さらに、Instagramを活用して、保護者限定の動画配信で保育の様子を伝え、子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得られるように工夫しながら取り組んでいる。 子どもの成長を感じてもらい園での取組を知ってもらう機会を設けている 保護者の養育力向上のために、子どもと保護者が共に楽しんで行事などの活動に参加することで子どもたちの成長をより感じたり、保育者と児の関わりを見たりすることで保護者の養育力向上へ繋がると考えている。コロナ禍でも保護者が参加できるものをより増やしていけるように検討している。コロナ禍で参加型の活動を行うにあたり、感染予防の対策や少人数で行えるように工夫をしている。				
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当		
評価項目9の講評				
地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を設けている 法人理念の一つに「心豊かなエコ環境と優しい地域に生き生きと共生する子どもを育む」を掲げ、地域資源を活用しながら子どものさまざまな経験や知識の深まりにつながるように取り組んでいる。積極的に散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、公園を利用したり、児童館や図書館を利用するなど、日ごろから地域の施設を利用して保育を行っている。給食の食材は近隣の魚屋さんや肉屋さん、八百屋さんを利用している。魚屋さんは、実際に魚を捌く様子を見せてもらう機会を作っている。 大学生や高齢者など幅広い世代と交流する機会を持っている 地域の大学生とは、七夕祭りで交流をしている。大学の七夕祭りに参加し、大学生と一緒に笹飾りや竹灯籠作りを作ったり、人形劇を鑑賞したりしている。また、図書館の職員による絵本の読み聞かせへの参加や専門講師による正課体操、消防署、警察署など園の職員以外との交流できる機会を設けている。勤労感謝の祝日に合わせて普段からお世話になっている地域のお店や施設に制作物プレゼントをする取組も行っている。高齢者福祉施設とは、子どもたちの普段の遊びの姿や歌っている姿をDVDに動画として納め、コロナ禍でも工夫して交流をしている。				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	子どもの様子をできる限りわかりやすく伝えることができるように取り組んでいる	
内容①	指導計画の内容は、年度当初の保護者会やクラスだよりなどで保護者に伝えている。クラスだよりには、月のねらいを掲載し、保護者が指導計画の内容を確認できるようにしている。保育活動の様子は写真にコメントを添えた掲示物やFacebookを使って発信している。Facebookは、地域やこれから利用を考えている家庭に向けても伝えるような内容で発信している。また、Instagramでは、利用している保護者限定として動画や写真を発信しており、子どもの様子をできる限りわかりやすく伝えることができるように取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	魚が海で生きていてその命を頂くことを実感し、命の大切さを学ぶ貴重な体験をしている	
内容②	当園は、食育活動を豊富に取り入れて、子どもたちが食べることや食材などに興味・関心を持てるように取り組んでいる。多彩な食育活動の一つに、日ごろ給食の食材を仕入れている地域の魚屋さん協力のもと、魚の解体ショーを行っている。アジやイワシ、ブリなどいつもは切り身やすり身で給食にでてくる魚を丸ごと見せてもらい、色や形、大きさなどを観察し、捌く様子を見ており、偶然にも捌いた魚から小さい魚が出てくることも経験している。魚が海で生きていてその命を頂くことを実感し、命の大切さを感じることに繋がる貴重な体験をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	地域子育て支援として保育所体験や給食の試食会、親子クッキングを行っている	
内容③	地域子育て支援の活動として、保育所体験や給食の試食会、親子クッキングに取り組んでいる。感染症拡大予防対策として内容により一日一組や二組限定で行っており、ポスターの掲示やFacebookで情報発信している。親子でクッキングは、本園に通う親子も参加できる企画で、クッキー作りを通して、子どもの好奇心をくすぐりながら、五感を使って「食」を体験し、楽しい時間となるように取り組んでいる。給食レシピの配布も行い、保育園での食育活動の一部を体験してもらい、保育園がどんなところか知ってもらう機会にもなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	様々な食育活動を通じて、子どもの食への興味・関心、楽しく食べる意欲を育み、子どもの育ちを支えている
	内容	発達に合わせたねらいをもち、様々な食育活動を行っている。野菜の栽培活動や魚の解体ショーなど実際の食材に触れたり、みたり、香りをかいだり、味わったりするなど楽しみながら取り組んでいる。毎月行っているクッキングでは、食に関する事柄だけがねらいではなく、包丁やピーラーなどの危険な調理器具も扱う活動を取り入れ、危険なことは危険なことだと理解することの大切さも学んでいる。様々な食育活動を通じて、子どもの食への興味・関心、楽しく食べる意欲を育み、保護者にも掲示やお便りなどで食の大切さを伝え子どもの育ちを支えている。
2	タイトル	外部の専門講師や機関を利用して、就学へ向けた不安や緊張を軽減すると共に期待や自信が持てるように取り組んでいる
	内容	当園は、保護者の地域ニーズにあった活動として正課体操（保育時間内に行う体操指導）の導入や読み書きなどを学ぶなど、外部の専門講師や機関を利用した活動も取り入れている。正課体操では都心のため、子どもたちが十分に動き回れる場が少ないことから体幹を育めるように導入している。読み書きなどを学ぶ取組では、就学に向けて小学校の模擬体験ができるように取り入れており、就学へ向けた不安や緊張を軽減すると共に期待や自信が持てるように取り組んでいる。3～5歳児の保育園を強みとし、小学校就学に向けての保育提供をしている。
3	タイトル	職員の特技を活かした保育に取り組み、職員の自信と保護者の高い満足度につながっている
	内容	園内研修などの機会を活かして保育力の向上に努めている。また職員一人一人の性格や特技を保育に活かし、自信による成長と自己肯定感の確立に繋げている。責任を持たせ、担当した業務を考えながら、やりきることを通して責任感や自信の高まりにつなげている。多様な経歴を有する職員のピアノ、制作、リズム、調理などの特技を生かした様々な活動を取り入れ、生活や遊びに変化と潤いを持たせ子どもの生活が豊かに展開できるようにしている。子ども一人一人の生きる力を育むという保育目標に向けて、職員一人一人の良さを活かす職場作りが行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園長会へ参加し、地域支援の活動をさらに小学校や保育園など、子どもの就学支援への展開に期待したい
	内容	当園は、町内会、地域商店との支援、児童相談所や家庭支援センター、保健所など、関係機関との連携で子どもや保護者への支援を行っている。一方、当園は高層マンションの一階に設けられていることや、開設間もないこともあり、近隣の住民への働きかけや、保幼小と子どもの就学に向けた環境にかかわる機関との関係構築が手薄になっている。特に、保幼小の連携は地域の環境に依存するため、保育園側から積極的に働きかけないと進まない地域も多いため、園だよりを届けるなど身近なところに着手するなどして推進することを期待したい。
2	タイトル	子どもの安全を考えたリスク管理に努めているが、リスクマネジメントのさらなる強化に期待したい
	内容	園外活動中の事故や園内での怪我などを捉え、会議などで話し合い、職員間での注意喚起や指導につなげている。消防や警察とも積極的に連携・協力を図り、避難訓練や不審者対応の指導を受けたり、園外の危険箇所を確認するなど、子どもの安全を考えた対応を進めている。一方、リスクマネジメントのさらなる強化に向け、保育中のヒヤリハット情報や見落とししているリスクの特定を行い、優先順位付けも視野に再検討されたい。そして優先順位に基づき対策を作り、検証しながら、効果が十分にでなければ再度見直しを図るリスクアセスメントに期待したい。
3	タイトル	園のビジョンの達成のために、業務推進の面も視野に入れた定量化された独自の中・長期事業計画の策定に期待したい
	内容	法人理念の具現化に向けた中・長期計画にもとづき、全体的な計画や保育年間指導計画などの短期計画を策定している。中・長期計画は保育運営上の大枠を捉えた内容となっているため、例えば中期計画や短期計画を立てる手法として、「SWOT分析」と言う様な手法を用いて「ひと、もの」から強み、弱みを分析されながら取り組んでみるのも一考の余地があるのではないだろうか。将来こうあるべきビジョンを事業面での計画にも反映させ、職員と保護者に園の将来像を理解してもらうしくみとして定量化された園独自の中期事業計画の策定に期待したい。